庄内砂丘メロン栽培だより No3

R6
3/27

初期生育確保のための適切な温度・灌水管理をしよう！

〇定植前にマルチ内の土壌水分を再度確認しましょう。

〇スムーズな活着を促すため、定植圃場の地温・土壌水分を確保しましょう。

ハウス早熟栽培

育苗

・育苗中は、日中 25℃以下、夜間 15℃を目標に換気を行いながら温度管理を徹底する。
・育苗ポット内の培地温度を徐々に下げ、定植後の低温に馴らしておく

定植準備

・D-D や DC 油剤を処理する場合は、作付の 10～15 日前までに行う。
・施肥やマルチング等は、定植の 7～10 日前までに行う。
・基肥は、窒素成分量で 6～8 kg/10a 程度を目安とする。
・マルチ、トンネル、ハウスカーテンの設置は定植の 7 日以上前に終わらせて地温を確保する。
・マルチは、透明や赤外線透過マルチ等、地温を上げやすく保温性の高いものを用いる。
・マルチの下深さ 10 ㎝の位置での地温を 16℃以上確保する。
※保温管理を徹底し、温度計で地温を確認する。
・灌水チューブは畝上に 2 本、畝の両側に 2 本設置し（図 1）、細かな管理がしやすいようにバルブをつける（図 2）。
・マルチ内が乾燥しないように適宜灌水し、土壌水分を保つ。

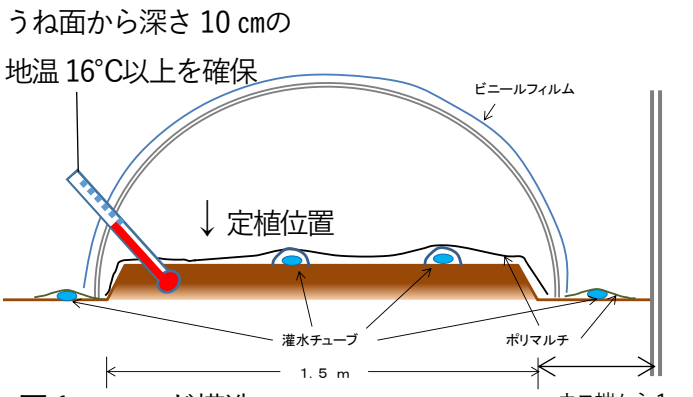


図 1　ベッド構造

図 2　灌水系統の具体例

定植

（1）定植適期
・親づる摘心後 7 日～10 日（子づるが伸長し始めた頃）
・根鉢が形成され、崩れない状態の苗

図 3　定植期の根鉢の状況→

（2）定植

・植穴は、ポットサイズに合ったホーラーで、うね端から約 30 cmに位置にポットの高さに合わせた深さに掘る。
・アブラムシ類防除のため、育苗期後半に苗に登録のある薬剤を施用するか、定植時に植穴に粒剤を施用する。
・定植は、活着不良を防ぐため、根鉢を崩さないよう丁寧に行う。
・定植後、根鉢の周囲に灌水し、隙間ができた場合はさらに土を入れ、ポットの土と畑土を密着させる。（図４）
・マルチの植穴から熱風が吹き出て葉が焼けてしまうため、植穴周囲にマルチ押さえ用の土をのせる。
・不織布・保温キャップの設置は、活着するまでとする(定植後 7～10 日間)(図 5)
・灌水は、株に近いチューブ１本を使って、チューブの張り具合や水の動きを観察し、灌水ムラが発生しないようにする。

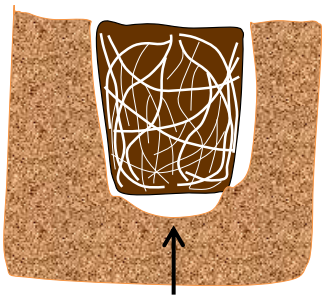


図４　鉢底に隙間が出ると生育が遅れるので注意

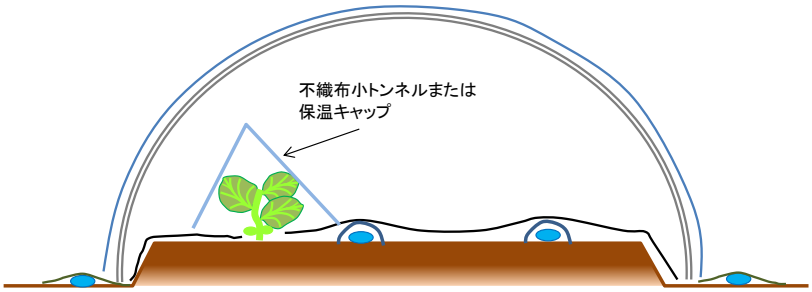
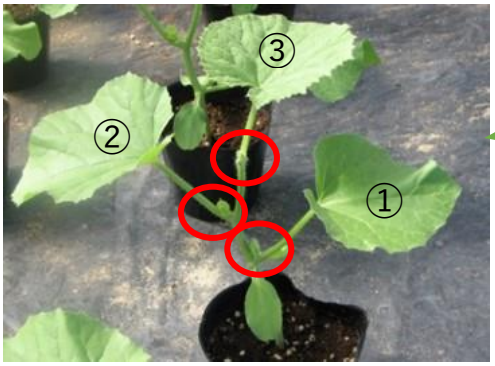


図５　定植後の保温

トンネル早熟栽培

・活着後、鉢ずらし（本葉２枚頃）までは地温 22℃の設定とする。
・鉢ずらし後、定植７日前までは地温 20℃の設定とする。
・定植７日前から定植までは地温 15℃の設定とする。
・定植３日前からは通電を中止し、苗を低温に馴らす。
・灌水は地温の低下・過湿・乾燥に注意しながら、晴れた日の午前中に行う。
・摘心は、定植の 7～10 日前に行う。本葉３枚目が 10 円玉大になった頃が目安。



定植適期の苗↑

←本葉３枚残して摘心をする

◎生育のバラつきが生じるため、
後から揃いのいい子づる２本を残す

農作業安全及び農薬の適正使用に努めて下さい！

問い合わせ先：
庄内総合支庁　農業技術普及課　TEL：0235－64－2103
酒田普及課　TEL：0235－22-6521

作成：庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト会議